

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月12日

上場会社名 株式会社ソフトフロントホールディングス 上場取引所 東
コード番号 2321 URL <https://www.softfront.co.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）二通 宏久
問合せ先責任者 （役職名）取締役 財務・管理統括担当 （氏名）程崎 絵季加 TEL 03-6550-9270
半期報告書提出予定日 2025年11月12日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	409	4.1	△30	—	△26	—	△26	—
2025年3月期中間期	393	1.8	△13	—	△14	—	△24	—

（注）包括利益 2026年3月期中間期 △33百万円（－％） 2025年3月期中間期 △24百万円（－％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	△0.51	—
2025年3月期中間期	△0.78	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	2,242	1,938	78.2
2025年3月期	1,707	1,289	72.0

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 1,753百万円 2025年3月期 1,229百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	0.00			
2026年3月期（予想）			—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

当社グループは2025年6月頃に連結業績予想を開示する予定をしておりましたが、新規事業を含むことから未確定要素が引続き存在し、連結業績を見通すことが困難なため、予想の公表を控えております。合理的な算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 一社 (社名) ー 、除外 一社 (社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期中間期	51,970,899株	2025年3月期	45,263,599株
2026年3月期中間期	97株	2025年3月期	97株
2026年3月期中間期	51,091,156株	2025年3月期中間期	30,873,202株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (中間期)

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている今後の見通し等の将来に関わる記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、本資料に全面的に依存した投資等の判断は差し控え願います。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善等を背景に緩やかな回復基調となりました。一方で米国の通商政策や、原材料価格・エネルギー価格等の高騰などの影響で、依然として不透明な状態が続いております。

このような経済環境の下、IT情報サービス市場におきましては、日銀が発表した2025年9月の短観（企業短期経済観測調査）によると、2025年9月のソフトウェア投資計画は前年同期比12.9%増となり、DX（デジタルトランスフォーメーション）技術を活用した人手不足への対応や、基幹システムの刷新など、企業のIT投資重要は引き続き旺盛であることを示しています。

当社グループにおける顧客企業の動向につきましては、様々な業態におきまして業務効率化と生産性向上への強い意欲や、企業価値向上に向けたWeb等へのIT投資を背景に当社サービスの拡大導入への需要が継続しており、今後も継続していくものと考えております。

当社グループにおきましては、過年度から引き続き収益構造の改善に取り組むとともに、当中間連結会計期間におきましても、継続して当社サービスのブランディングをはじめとしたマーケティング施策の構築及び実行により顧客との商談機会が増加し、提供する各種製品によるストックビジネスの積み上げを進めていく一方、コンタクトセンター市場における旺盛な業務自動化ニーズに対応すべく、生成AI型ボイスボットの応用にも取り込んでまいりました。

また、当社グループにおける活動方針であります「売りやすく、作りやすく、使いやすく」を掲げ、顧客ニーズに寄り添う支援体制の強化を図るとともに、既存製品における技術競争力の強化に向けたプロダクト開発に注力しております。

その中心となる主力製品が、自然会話AIプラットフォーム「commubo（コミュボ）」及びクラウド電話サービス「telmee（テルミー）」並びにWebサイトやコンテンツを簡単に構築・管理・更新できるシステム「SITE PUBLIS（サイトパブリス）」であり、当中間連結会計期間における事業活動により次の成果が得られております。

<commubo>

機能強化（使いやすく）活動

- ・AIボイスボット「commubo」、生成AI連携の会話デモ体験を公開
（～お客様に寄り添うAIコンタクトセンターを、一緒につくる～）

外部連携（作りやすく）活動

- ・BIZTEL×AIボイスボット「commubo」連携を強化
（～電話転送時に通話履歴を自動表示、人とボイスボットの協業をさらにシームレスに～）

認知向上（売りやすく）活動

- ・イベント1：（ウェビナー開催）「複数事例から見る、成功するボイスボットの選定と運用（7/23開催）」
- ・イベント2：（ウェビナー開催）「ボイスボット導入のプロに聞く！成功の秘訣、低コストで優れた顧客体験を実現！（7/29開催）」
- ・イベント3：（展示会出展）「営業・マーケDXPO 東京'25（コールセンター・CX展）」において、アイビーシステム株式会社ブース内にcommuboを展示（通販業務を想定したデモ体験を実施！（8月22日～23日開催））

導入事例・他の活動

- ・Quants株式会社が督促コールにAIボイスボット「commubo」を採用、リスト大量発信を活用し、有人対応時よりも債権回収率を向上
- ・日本システム技術株式会社がテクニカルサポートにAIボイスボット「commubo」を採用、カスタマイズの柔軟性を求めリプレイス、PDCAを加速し顧客満足度向上へ
- ・日本海ガス株式会社がガスの開栓受付にAIボイスボット「commubo」を採用、コールセンター体制強化で経営課題解決に貢献
- ・株式会社モノタロウがカスタマーサポート電話対応にAIボイスボット「commubo」を採用、取引先への納期確認リマインドコールに活用、回答リードタイムを約5割短縮

<telmee>

機能強化（使いやすく）活動

- ・通話録音機能の使用状況、録音データの管理に関するユーザーインターフェースを追加
- ・外部システムとのAPI連携機能の拡充

<SITE PUBLIS>

- ・Webサイト運用効率化をメインとしたCMS活用法のオンラインセミナーを複数開催することにより認知度を向上させるとともに、受注に向けた活動を推進
- ・販売パートナー向けに弊社CMSの操作方法、実装方法のレクチャー会を定期的に開催し、新規も含め販売パートナーとのリレーションを強化

以上の結果、当社グループの当中間連結会計期間の経営成績は、売上高409,615千円（前年同期比4.1%増）、営業損失30,887千円（前年同期は営業損失13,571千円）、経常損失26,533千円（前年同期は経常損失14,620千円）、親会社株主に帰属する中間純損失26,286千円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失24,140千円）となりました。

売上高につきましては、主力製品commubo及びtelmeeにおける既存顧客による従量課金額の増加並びに新規受注の獲得により前年同期比4.1%増となりました。外注費の削減を図ることによる売上原価の圧縮や販管費の縮減なども継続して取り込んでおりますが、業績拡大を図るためのマーケティング費用の増加及び会社業務の拡大に伴い即戦力となる人材採用なども並行して推進した結果、営業損失は30,887千円となりました。

なお、当社グループの主力製品であります「commubo」及び「telmee」は月額課金のストック型ビジネスであり、また「SITE PUBLIS」も保守契約等のストック型ビジネスであることから、売上高においては今後も顧客数の伸びに応じて安定的な収益が堅調に推移するものと見込んでおりますが、受託開発売上においては、顧客企業の動向による受注の遅れにより売上の計上が期ずれする可能性があります。

なお、当社グループは、コミュニケーション・プラットフォーム関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は2,079,391千円となり、前連結会計年度末に比べ453,396千円増加いたしました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が64,747千円減少した一方で、現金及び預金が515,799千円増加したことによるものであります。固定資産は162,813千円となり、前連結会計年度末に比べ81,549千円増加いたしました。これは主に、ソフトウェア仮勘定が12,576千円、投資その他の資産が69,602千円増加したことによるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は137,688千円となり、前連結会計年度末に比べ112,179千円減少いたしました。これは主に、その他流動負債が108,102千円減少したことによるものであります。固定負債は165,835千円となり、前連結会計年度末に比べ2,132千円減少いたしました。これは、その他固定負債が2,132千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は1,938,681千円となり、前連結会計年度末に比べ649,257千円増加いたしました。これは主に、第三者割当増資により資本金及び資本剰余金がそれぞれ274,999千円、新株予約権が132,912千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は78.2%（前連結会計年度末は72.0%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは2025年6月頃に連結業績予想を開示する予定をしておりましたが、新規事業を含む未確定要素が引続き存在し、連結業績を見通すことが困難なため、予想の公表を控えております。合理的な算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,419,489	1,935,288
受取手形、売掛金及び契約資産	183,084	118,336
その他	23,421	25,766
流動資産合計	1,625,994	2,079,391
固定資産		
無形固定資産		
ソフトウェア	33,220	32,591
ソフトウェア仮勘定	5,064	17,640
無形固定資産合計	38,284	50,231
投資その他の資産		
その他	69,221	126,981
貸倒引当金	△26,242	△14,400
投資その他の資産合計	42,979	112,581
固定資産合計	81,263	162,813
資産合計	1,707,258	2,242,204
負債の部		
流動負債		
営業未払金	15,114	10,235
未払法人税等	15,158	17,961
賞与引当金	2,000	—
その他	217,593	109,491
流動負債合計	249,867	137,688
固定負債		
債務保証損失引当金	156,241	156,241
その他	11,726	9,594
固定負債合計	167,967	165,835
負債合計	417,835	303,523
純資産の部		
株主資本		
資本金	612,226	887,225
資本剰余金	984,090	1,259,089
利益剰余金	△366,273	△392,560
自己株式	△64	△64
株主資本合計	1,229,978	1,753,690
新株予約権	1,211	134,123
非支配株主持分	58,234	50,867
純資産合計	1,289,423	1,938,681
負債純資産合計	1,707,258	2,242,204

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	393,599	409,615
売上原価	215,426	203,471
売上総利益	178,173	206,143
販売費及び一般管理費	191,744	237,030
営業損失(△)	△13,571	△30,887
営業外収益		
受取利息	18	1,514
貸倒引当金戻入額	—	11,241
その他	5	18
営業外収益合計	23	12,774
営業外費用		
支払利息	54	—
貸倒引当金繰入額	1,017	—
株式交付費	—	6,265
支払手数料	—	2,156
その他	0	—
営業外費用合計	1,072	8,421
経常損失(△)	△14,620	△26,533
特別利益		
投資有価証券売却益	100	1,000
特別利益合計	100	1,000
税金等調整前中間純損失(△)	△14,520	△25,533
法人税、住民税及び事業税	9,490	8,119
法人税等合計	9,490	8,119
中間純損失(△)	△24,010	△33,653
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	130	△7,366
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△24,140	△26,286

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
中間純損失 (△)	△24,010	△33,653
中間包括利益	△24,010	△33,653
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△24,140	△26,286
非支配株主に係る中間包括利益	130	△7,366

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失 (△)	△14,520	△25,533
減価償却費	14,741	13,693
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	617	△11,841
賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	△2,000
受取利息及び受取配当金	△18	△1,514
支払利息	54	—
株式交付費	—	6,265
支払手数料	—	2,156
投資有価証券売却損益 (△は益)	△100	△1,000
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	57,435	64,747
仕入債務の増減額 (△は減少)	△16,457	△4,879
前受金の増減額 (△は減少)	2,007	9,947
その他	△50,239	△24,306
小計	△6,478	25,734
利息及び配当金の受取額	18	1,514
利息の支払額	△41	—
法人税等の支払額	△1,563	△7,010
営業活動によるキャッシュ・フロー	△8,065	20,238
投資活動によるキャッシュ・フロー		
無形固定資産の取得による支出	△9,842	△25,640
投資有価証券の売却による収入	100	1,000
貸付金の回収による収入	2,120	—
敷金及び保証金の差入による支出	—	△58,880
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,622	△83,520
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△5,838	—
株式の発行による収入	—	446,169
新株予約権の発行による収入	—	132,912
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,838	579,081
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△21,525	515,799
現金及び現金同等物の期首残高	206,026	1,419,489
現金及び現金同等物の中間期末残高	184,500	1,935,288

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

当社グループは、コミュニケーション・プラットフォーム関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当中間連結会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

当社グループは、コミュニケーション・プラットフォーム関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年4月25日付で、Potus Helios Fund 7から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当中間連結会計期間において資本金が274,999千円、資本剰余金が274,999千円増加し、当中間連結会計期間末において資本金が887,225千円、資本剰余金が1,259,089千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。